



9月7日、新今宮小学校にて市教組教研を開催しました。今年度は平和教育（東部支部）、健康教育（養護教職員部）、教科別（西部支部）の3つの分科会で報告が行われ、各分科会とも素晴らしい報告と参加者の意見交流で盛り上がりました。また、終了後にたくさんの感想も寄せられました。各分科会の様子といただいた感想を掲載します。（編集の都合上、すべての感想を掲載できなかったことを、お詫び申し上げます）

— 平和教育分科会 — 市教組平和教育

フィールドワークからの学び

平和教育分科会では、東部支部大江小分会・大岸有希さんの報告をもとに議論を深めました。昨年度に市教組で実施したヒロシマとオキナワのフィールドワークに参加して、その時の学びを踏まえた平和学習の取り組みの報告がなされました。実際に現地でフィールドワークをしたからこそ得られた学びをもとに授業実践をすることで、子どもたちが戦争を現実のこととして感じる事ができたという報告を受け、参加者から多くの質問や意見が出されました。改めて、平和教育の大切さと、それを支えるのが組合の活動だということを参加者全員で確認して分科会を終えました。



(感想)

- ・ヒロシマ、オキナワどちらもご一緒させてもらいました。現場に戻ってからの実践が聞けて、またその中であった子どもたちの声も聞いたのがとてもよかったです。また、他の人の実践交流もやれたらいいなと思いました。実際に自分が行っての学びの大切さをあらためて感じました。ありがとうございました。
- ・自身のこれまでの取り組みと重ねながら聞いたが、組合によって学びの機会を与えてもらったことが、現場

での実践にしっかりと落とし込まれており、単なる知識の伝達のみならず、出会いや体験によって生まれた感覚や熱量が大切だということをあらためて確認できた分科会だった。

- ・(広島での平和学習) お話を聞いて、子どもの頃から戦争について学ぶこと、考えることってすごく大切なんだなということを感じました。私自身が、平和教育・人権教育を大切にしたいと思っているのも、きっと大岸先生のような強い思いを持った先生方に教えてもらってきたからなんだろうなと思いました。私の今勤めている学校では、平和教育を夏休み前にしていません。若い先生たちが多く、とてもしっかりされててすごいないつも思っていますが、もしかしたら8月6日を知らない人がいるのでは…と思い、伝えてみたいなと思いました。
- ・(沖縄での平和学習) すごく勉強されたことが伝わりました。勉強になりました。高学年を持ったことがないのですが、自分も高学年を持って子どもたちとともに学んでいきたいなと思いました。自分が「ガマ」を訪れたことも思い出しました。戦争中の人たちの行動に衝撃を受けて、戦争ってというのは、人にこんな行動をさせてしまうのかと…。もっと学んで、私も他の先生方や子どもたちに伝えられるように頑張りたいなと思いました。ありがとうございます。
- ・平和学習の取り組みを聞いて、私も一緒に学んで実践していける仲間が自分の学校でもほしいなと思いました。今までは教えてもらうばかりでしたが、自分より若い先生たちも多くなってきたので、引っ張っていけるようになりたいなと思っています。学習会があれば声をかけやすいので、またお願いします。
- ・ヒロシマ、オキナワにフィールドワークに実際に行って、見たこと・感じたことをもとに、子どもたちへ伝える教材の授業を作られたこと。とても素晴らしいと思いました。実際に体験することは、子どもたちにダイレクトに伝わっていくと思います。実物と出会うことはとても大切だと思いますし、教員が見てくることも出会いになると感じ、「私も頑張らない」と思いました。
- ・良い分科会でした。若い先生が声をあげ、ボトムアップされフィールドワークにつながったことを聞き、さすがに組合だと感じました。大岸先生のエネルギーな実践報告はとてもよかったです。ガンバレと思いました。

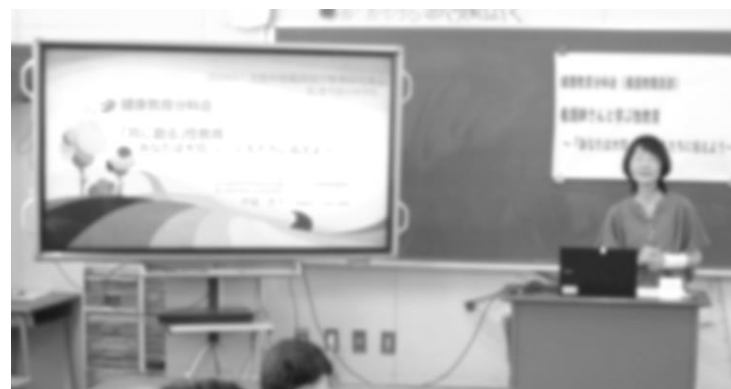
- ・教員の中に8月6日、8月9日、8月15日を知らない人がいるのは、私も感じていました。私も推進校出身なので、子どもたちに平和の大切さを伝えていますが、何も知らない人が実践するのは怖いなと思っています。子どもたちに伝えていくのと、同僚にも伝える必要があるので、人権学習をするときは学年でするようにしました。
- ・平和教育分科会は、現在の世界情勢においてとてもタイムリーでした。できることなら毎年、少なくとも1年おきくらいで開催できないでしょうか。
- ・若い方の素晴らしい報告に驚きでした。このようなフィールドワークと市教組教研の大事さを痛感。継続して下さい。

— 健康教育分科会 —

看護師さんと学ぶ性教育

「あなたは大切と子どもたちに伝えよう

学校と地域「共に創る」性教育について、看護師の伊藤悠子さんと一緒に学びました。伊藤さんは、閉院になった芦原病院の看護師の頃から学校での「性教育」に携わっておられます。子どもには内々に秘めたパワーがあり、そのパワーを健康的に使う方法を学ぶ機会が「性教育」である。単なる知識（正しさ）の押しでは子どもから素通りしてしまう、子どものパワーを我々が引き出して、行動する力をつけていく必要があると話されました。様々な境遇で生まれた子どもが取り残されないメッセージを伝える実践について紹介してくれました。参加者からも、伊藤さんと一緒に行った実践について、中学校の取り組みの紹介、加えて質問が多数出ました。質疑応答などを通じて、学びをより深めることができました。



(感想)

- ・本日は勉強になり、そして何より元気になる時間でした。お話を聞いて、性教育で一番大切なことは、誰一人取り残さないことであると感じました。そして、それは私が養護教諭として働くなかで、核としていきたいところであると思い、それを見つめられた今回の機会に感謝したいと思います。性教育については、事前アンケートの活用や、ことばと行動をからめるなど、教えていただいたことを実践していきたいと思います。12月の学習会もとても楽しみです。ありがとうございました。
- ・伊藤さんのお話に「どの子どもとりこぼさない」という強い気持ちを感じ、自分では忘れがちになっているな…とあらためて、がんばろうと思いました。「単なる知識の押しは素通りする」と体験を重視して行動につなげていくことは、低学年を担当している今、とても参考になりました。多様性で待つこと、聴くことがともに生きることと教えていただいて、なかなか何をすることも時間のかかる自分のクラスの子たちが、きちんと待ったり、どうしたいのかその子に聞いたりしながらかかわっている姿を思い出し、子どもたちはちゃんとともに生きようとしているんだなと元気をもらいました。自分の学校の先生たちにも伝えたいです。本当にありがとうございました。
- ・性教育での大事なことをわかりやすく話していただき、とてもよかったです。子どもたちが持つ本来の力を信頼することや、特に理由がなくてもそこに居ていいということ、性加害はコントロール支配要求で嫌だということをお腹に力を入れて声を出す練習をすることなど、聞けて良かったと思うことが多かったです。第二性徴のことも、よく考えていかなければ、工夫していかなければと感じました。他の人の質問の後に話していただいたことも教えていただき、本当によかったです。ありがとうございました。
- ・いのちの安全教育を実践しているが、物足りなさや、決まった内容に少し違和感を感じています。性暴力やDVなどに対して、教育現場でできることはどんなことがあるのか、今日のお話以外にも色々教えていただきたいなと思いました。

今日はステキなお話ありがとうございました。小学校4年生の保健学習で二次性徴の学習をする時、今年度から教科書の内容も変わり「自分らしさ」について子どもたちとしっかり勉強したいと思っていました。二次性徴の学習で「死にたい気持ちになる子がいる」という言葉、今後一生忘れられません。私たちがその気持ちに気が付いていなければ、子どもを傷つけてしまう授業になっていたかも…と思うと、現場に戻りみんなに伝えたいと思いました。体の性、心の性、好きになる性、表現する性、大切にしたいです。

少しずつ性教育を取り組んでいます。知識の詰め込みだけでは、子どもの記憶には残っていないんだ…と思うことが多々あり、悩んでいました。伊藤さんのお話で、「正しさの押しつけではなく、インパクト、感情と思考の結びつきが大切で、発揮できる場所がなければ残らない」と。感じる→考える→行動の繰り返し、知的好奇心を動かせるような指導が必要なことを学びました。一発の授業だけではなく、系統立てた指導が必要で。指導する方の知識や人権的な感覚をみがいしていくことが、これからもっと必要だと感じました。

1つ1つのお話がストンと胸に落ちる内容でした。心があたたかくなるお話で、疲れた気持ちがほぐれていきました。「あなたは大切な存在」そう感じてもらえるよう、自分にはどんな声かけ、働きかけができるか、あらためて考えさせられる時間でした。本当にありがとうございました。

本日は伊藤さんのお話ありがとうございました。性教育をどうしていくかの知識だけではなく、子どもの見方、まなざし、感情の動かし方など、言葉の端々にでてくるものにあたたかさを感じました。知識だけでは身に入らず、元気をもらう中で気持ちや行動が動いていくものです。

もっと性教育（私が思っている性教育）の具体的なお話なのかと思いましたが、人権教育につながる大きい意味での性教育で、難しく感じる部分もありましたが、とても興味深かったです。「多様な思いや考えを認める」は、いろいろな場面で意識しているつもりですが、自分が生きて学んできた範囲内でやっているの、どこかで誰かを傷つけたり、もっと良い対応があるんじゃないかなと思うことがあります。このような機会、また少しいろいろな考え方を取り込むことができ、良かったです。ありがとうございました。



・ともに創りたいこと、何を子どもに渡したいのか、性教育のベースになる考え方など、大切なことについて確かめることができました。感情と思考を結び付ける活動を、包括的性教育の取り組みの中ですすめていくことが、あらためて必要なことだと感じました。今は子どもたちと直接かかわる機会が少なくなりましたが、教職員とともに何ができるか、考えていきたいと思ひます。ありがとうございました。

・自身の性自認について考えた時、はっきりとは覚えていませんが、お人形遊びより戦隊ものが好きだったし、スカートよりもズボン派でした。我が子（6才・女の子）は自分の子どもの頃に比べると、はるかに女の子っぽいもの、かわいいものが好きで、親子でも違うのだと思いました。自分の子や学校の子どもたちにどうやって伝えれば、ただ伝え聞くだけでなく自分のこととして考えてもらえるのかを、あらためて考える時間になりました。ありがとうございました。

・性教育の実践について、たくさんの「そう、そう」を感じて、現場へ持ち帰ることができました。パワー充電できました。ありがとうございました。

・正しい知識を伝えることも大切ですが、子どもたちが行動につなげる性教育が必要だと学びました。「あなたは大切」と子どもたちに伝えられる指導を志していきたいと思ひます。

・久しぶりに伊藤さんにお会いし、昔のことを思い出しました。子どもにどう答えたらいいかという質問にもお答えいただき、1対1の対応に凝り固まっていたなあと思いました。もう一度、子ども全体（その子全体）をながめてみようと思いました。ありがとうございました。

— 教科別分科会 —

どうする ICT！

知ってみよう！やってみよう！

教科別分科会では、西部支部・鶴見橋中分会の石原直人さんより「どうする ICT！知ってみよう！やってみよう！」と題した報告がありました。鶴見橋中では一人一台端末の効果的な活用に向けて、年度当初に ICT の研修を行い、その趣旨を共通理解。Google Classroom をメインツールに教職員や生徒が授業の場面だけではなく、生徒会や部活動でも課題の共有や積極的なコミュニケーションを図っているそうです。分科会では参加者が一人一台端末で、その活用法などを体験しながら、ICT を活用した教育についての議論を行いました。活用に必要なスキルの習得やメディアリテラシーについても留意しながら学習を進めること、対人によるコミュニケーションを大切に継続することを確認し、有意義な学びとなりました。



(感想)

・本校では Teams しか使ったことがなかったので、グーグルクラスルームを実際に使うことができ、よかったです。両方を場にに応じて使い分けられるようになるとういなと思ひました。

・教員がまず使いこなさなくては、という点はその通りですが、そうではないのに性急にデジタル教材を使わせようとするのは、何なのかなと思ひました。本校では「心の天気」以外で1日1回以上端末を使い、しかし子どもが画面を見る総時間は減らせ、という矛盾したことが目標になっています。こんな時、組合員としてはどうしたらいいかなあと思ひてしまいました。

・「心の天気」の話も出ましたが、「心の天気」の入力率が上がると、次は100%やりなさい、他でも使いなさいと教育委員会はハードルを上げてきました。どう活用するかだけでは流されると思ひます。

・報告者が ICT 教材の問題をはっきりさせつつ、活用方法を提案されたのは良かったと思ひます。

・何かを調べるのにパソコン検索で済ませるのではなく、やはり本（図書館）を利用することの重要性はその通りだと思います。

・「心の天気」のことは多くの方が問題だと考えていることがわかってよかったです。

・「心の天気」だけでなく、子どもたちが人とつき合うのが下手になっていくことや、何でもデータ化して教育委員会→文科省という形でまるごと国民を統合することにつながるという危険性を感じます。特に世界のあちこちで侵略、ジェノサイドが広がり、日本もどんどん軍事大国になっていこうとしています。止めるのは組合の力です。

・各支部の小学校や中学校、いろいろな先生方の話が交流できてよかったです。そして、やはり「心の天気」の話題がですよね…。

・ICT の活用をすすめるにあたって、中学校でのさまざまな配慮やサポートをお聞きし、大人と子どもがともにスキル・モラルを学ぶことが大事だとあらためて考えました。（自分の所属地域では限られた時間で効率を上げるために、スキルの向上のみを追いがちです。）以前、ICT 担当をしていたこともありますが、日々変化していくツールの使い方に対応しつつ、何の目的で使用するのかを考えること、弊害についても理解することが必要だと思ひました。

